

トドマツ枝枯病の防除



融雪期の枝枯病罹病木：1年生枝の葉が緑色のまま大量に落葉する。落葉した枝は芽を吹かずに枯れてしまう。このような症状が見られたら枝枯病と判断してよい。

トドマツ枝枯病は、多雪地帯のトドマツ幼齢林に発生する病害で、この病気のために壊滅的な被害を受けた造林地も少なくありません。枝枯病は雪に埋まった幹や枝にだけ発生するので、枝枯病の被害を雪害と誤解する人もいます。

しかし、枝枯病は菌による伝染病なので、翌年の感染源になる罹病枝を、適期に切り取ることによって、被害を少なくすることができます。



幹に形成された枝枯病の病斑：枝枯病によって幹も枯れる。幹の病斑は枯死した1年生枝の付け根に形成される。



枝枯病発生後、手を加えなかった林分（林齢11年）：枝枯病により本数の減少が著しい。



罹病枝を切り取った林分：左と同じ造林地だが、罹病枝を切り取ったので被害は軽い（罹病枝切除は林齢7年、8年時）。